



日田ロータリークラブに入会して40年。今年創立55周年を迎え記念事業の実行委員長の大役が回ってきた。目玉はスーダンで10年以上医療活動をされている川原尚行先生の講演会だ。医師会長でもあるクラ

に ような 湯水



草野 義輔

うことでラクダが水浴びするようなおそらく細菌だらけの濁った水を勧められ、さすがにちゅうちよしたそうだが思い切つて飲んだ、というすごい話から始まった。日本で「湯水のように」は浪費の言葉だがスーダンでは貴重品の言葉になる。

発展しつつも危険な場所も抱えるスーダンで医療奉仕を継続しながら、今は口干しれんがを積み重ねての学校建設や井戸を掘ることなどが取り組みの中心という。

う有名な報道写真や自衛隊の国連平和維持活動(PKO)派遣問題程度が精いっぱい知識だ。

川原先生はスーダン空港でトランプルがあり講演会の前日遅く関西空港に到着、休む間もなく講演開始となった。冒頭、先生の仕事の流儀として現地人との信頼関係の構築が不可欠、とい

学校を造り授業ができることは地域が健康になる基本、井戸を掘りきれいな水を確保することは身体の健康の基本ということを強く認識させられた。発展途上国への支援の在り方を含め学ぶことの多い貴重な講演だった。(昭和学園高校理事長・日

田市)